

## 第11回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成25年1月24日（木） 10:00-11:00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官

4. 議事録

山本大臣から、以下のような挨拶があった。

- ・本日審議を行う「戦略的予算配分方針のフォローアップ」は政府全体の宇宙予算の優先順位けを実施したものである。
- ・初めての試みであるが、このフォローアップを政府予算案に如何に反映したか、宇宙政策委員会で改めてフォローアップをお願いしたい。
- ・今後とも宇宙政策委員会の意見を最大限に尊重して行きたい。

(1) 平成25年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針のフォローアップ（案）について

事務局から資料1について説明があり、本議題に対して、委員から以下のような意見等があった。

(以下、○委員発言、●事務局発言)

(事業評価の在り方について)

○プロジェクトは開始されるときにおよその計画があるが、今回の資料では、平成24年度補正要求の際に、プロジェクトの前倒しなのか、拡充なのかが分かりにくい。事業全体の概要があつたうえで、今年度は全体うちのどこの部分を行うのかということを示すとわかりやすいのではないか。(山崎委員)

- 各委員の評価のまとめとしての、「最重要事業」、「重要事業」、「予算の可能な範囲で実施すべきもの」、「事業の見直しが必要なもの」の4段階評価に基づき、「見直しが必要」とされたものについて、内容はいいが経費の削減が必要ということなのか、内容から見直さなさいということなのか、H25年度はいいが長期的に見直さなさいということなのか、それぞれについて感触を伺いたい。(山崎委員)
  
- 衛星画像の購入といった同じ分類の事業でも、省庁ごとに評価に差がある場合があり、こういった方向性で評価がされているのか根拠が見えにくい。(山崎委員)
  
- 今回の評価は、各委員からの評価を取りまとめたものであり、個別のプロジェクトの評価の方向性については、第8回宇宙政策委員会において、各委員からのコメントを公開しているところ。また、プロジェクトの事前評価、中間評価、事後評価が大事。(西本室長)
  
- 利用が広がっていくということが大事な評価の視点であり、利用関連の予算措置がまだまだ小さいと感じる。利用のための予算を増やして行くことが重要。各省庁が積極的に宇宙を利用するための予算を増やしていくような仕組みを考えていきたい。例えば内閣府でまとめて予算をとって、それで各省庁が利用を拡大していくような仕組みができないか。(中須賀委員)
  
- 「事業の見直しが必要なもの」と評価された事業について、細かく指摘するのではなく、例えば時期を見直すべきなのか、大目的・大枠を見直すべきなのか、予算の金額を見直すべきのかなどに大きく分けて、見直しの内容や視点を記載した方がよい。(松本委員)
  
- 今回は、宇宙基本計画の作成と並行的に作業した過渡的なものであるもので、本日の意見を踏まえ、次回は充実したものにして行きたい。(松井委員)
  
- 宇宙政策委員会は大所高所から議論する場であるので、議論は別途続けていく必要がある。(松本委員)

(有人宇宙活動や国際宇宙ステーション計画について)

○本報告書は平成25年度の宇宙関係予算に対するものであるが、国際宇宙ステーション計画については、宇宙基本計画案では2016年度以降経費削減に努めるとされている。本報告書の「見直しが必要」という意味は、2016年以降を議論していくべきということか。(山崎委員)

●そのような観点で評価しているものと思料。(西本室長)

○評価の視点として挙げられている、「国際協力を前提として多様な目的で実施する宇宙探査」のなかに、有人宇宙活動も含まれるのか。有人宇宙活動の評価にあたっては、産業だけではなく、外交・安全保障の観点も必須である。(山崎委員)

●国際宇宙ステーション計画は国際協力を進めているものであるため、こうした観点も当然含まれる。(西本室長)

○宇宙ステーション計画以降の、国際協力で行う有人宇宙活動については、月、火星、小惑星などの宇宙探査を行うことになると想定されるが、これは「E. 宇宙科学・宇宙探査プログラム」に分類されると考えてよいか。(山崎委員)

●宇宙基本計画案においては、「E. 宇宙科学・宇宙探査プログラム」と「F. 有人宇宙活動プログラム」の双方において、検討する必要性が指摘されている。(西本室長)

(その他)

○「宇宙輸送戦略の立案」は、輸送システムについて検討した結果、必要な場合には平成26年度以降も予算要求していくということか。(山崎委員)

●「宇宙輸送戦略の立案」は調査費であり、平成25年度に行われる予定の宇宙輸送戦略の検討の結果を踏まえて、将来の予算措置の在り方について、再度しっかり議論していく。(西本室長)

○「軌道上の衛星の運用」のような事業については、予算の削減によって実際に軌道上の衛星の運用ができなくなったときの影響を考えると、「予算

の可能な範囲内で実施すべきもの」という評価が妥当かは疑問がある。  
本報告書の各プロジェクトの評価について、解釈が誤解のないように説明補足していく必要がある。(山崎委員)

(予算編成の今後のスケジュールについて)

○予算編成の今後のおおまかなスケジュールを教えてください。(山川委員)

- 概算要求がとりまとまったので、今後、予算編成に係る方針を出し、政府予算案をまとめていくことになる。明確なスケジュールは示されていないが、可能な限り早く、予算案が国会で審議されることになると思料。  
(西本室長)

資料1「平成25年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針のフォローアップ(案)」については、委員会として了承された。

以上